

<2017年3月 月例会報告>

NPO サロンの事業を考える② —U-18 フットサル—

中塚 義実 (NPO 法人サロン 2002 理事長/筑波大学附属高等学校)
本多 克己 (NPO 法人サロン 2002 理事/(株)シックス)

- 【日 時】 2017年3月29日(水) 18:30~20:40 (終了後は近くの中華屋で懇親会 ~0:30すぎ)
【会 場】 すみだ産業会館 会議室5 (〒130-0022 東京都墨田区江東橋3丁目9-10)
【テーマ】 NPO サロンの事業を考える②—U-18 フットサル
【演 者】 中塚義実 (NPO 法人サロン 2002 理事長/筑波大学附属高校)、本多克己 (株シックス)
【参加者 (会員・メンバー) 7名】
奥山純一 (フットリンク運営者)、賀川浩 (スポーツジャーナリスト)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、小池正通 (La Esperanza Foundation)、小山基彰 (ヒーローインタビュー)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、本多克己 (株シックス)
【参加者 (未会員) 4名】 大友洋介 (武相高校フットサル部顧問)、橘和徳 (U-18 富山県フットサル選抜監督/富山いずみ高校/筑波大32期生)、永松慎二、国島栄市 (ビバ! サッカー研究会)
【2次会からの参加】 齋藤宣彰 (会社役員)、今廣佳郎 (会社員)、佐藤いちろう (靴郎堂本店)
【報告書作成者】 中塚義実、本多克己

<目 次>

はじめに

I. サロン 2002 とフットサル (中塚)

1. フットサルの誕生とあゆみ
2. サロン 2002 の誕生とあゆみ
3. サロン 2002 月例会で取り上げられたフットサル

II. U-18 フットサルのあゆみと現状

1. 東京都における U-18 フットサル大会 (中塚)
2. 全国へ向けての情報発信と U-18 リーグの創設 (中塚)
3. 全国大会開催へ向けて (本多)
4. 各地の現状 (情報交換)

III. これからの U-18 フットサルと NPO 法人サロン 2002

NPO 法人サロン 2002 理事会 2016-5 (2017年3月10日) 資料より一部転載
補足資料. 富山県の U-18 フットサル

「茗友 SC 通信 2017年3月号」(2017年4月2日) より転載

はじめに（中塚）

NPO 法人サロン 2002 の前身は、1980 年代後半にはじまるサッカーの研究会です。だからサロン 2002 にはサッカー関係の人や話題が多いのですが、1990 年代半ばに FIFA のリードで「誕生」したフットサルにも、初期のころから多くのサロン会員が関わってきました。過去の月例会で「フットサル」が何度も取り上げられていることからわかります（本文末【参考】をご参照ください）。

中でも U-18 年代のフットサルは、オフィシャル大会の整備が遅れたこともあり、サロン 2002 会員が積極的に支援してきたカテゴリーです。2014 年度の NPO 法人化以降は事業の担い手として、より積極的に関与するようになりました。

ここ数年で急速に整備が進んだ U-18 フットサル。“理念”を掲げて“熱き思い”で突っ走ってきましたが、これからは“現実”を見据えた上で、多くの方の理解を得ながら“継続と発展”を目指していく段階です。

ちょうど墨田区総合体育館で「ユースフットサル選抜トーナメント 2017」が開かれ、全国から U-18 フットサル関係者が集まります。NPO サロンの月例会で、さまざまな立場の方とともに U-18 フットサルの現状と課題を共有し、今後について意見交換できればと考えます。

I. サロン 2002 とフットサル（中塚）

1. フットサルの誕生とあゆみ

ここにお集まりの皆さんには釈迦に説法だと思いますが、念のため「フットサル」の誕生とあゆみについておさらいしておきましょう。

近代スポーツとしてサッカーが誕生して以降、11 人制のサッカーが世界中に広まります。しかしもちろん 11 人でなければいけないわけではありません。集まった人数に応じて、その場にあったミニサッカーを人々は楽しめます。冬に屋外へ出られない国の人々はインドアサッカーを楽しみ、南米の人々はサロンフットボールの名称で楽しむようになり、それぞれに国際的な組織もありました。それらの統一ルールを制定し、自らの傘下に収めようとした FIFA が、1994 年に「フットサル」を定めたというわけです。

FIFA という化け物組織の決定は、瞬く間に全世界に伝わります。同年、JFA はミニサッカー委員会をフットサル委員会とし、翌 1995 年、各都道府県にフットサル担当者を置くこととなり、東京都でも委員会が組織されます。東京都の初代委員長は、当時成城大学にいた小野剛氏でした。私は最初から 2 種担当ということで東京都の委員会メンバーです。当時のメンバーで今でも残っているのは私だけです。ちなみにフットサル委員をやってくれないかという打診は、当時東京都高体連サッカー専門部長だった上野二三一さんからで、場所は富山市の夜の町でした。富山で高校総体があったとき、私は JFA 科学研究委員会の社会調査班のメンバーとして富山に赴き、「J リーグ発足にともなうユースサッカーの変化」についての意識調査を、高校総体出場チームの監督・選手に行っていたところでした。

「フットサル」の誕生

- ◆1863年 FA創設 ...近代スポーツとしてのサッカーの誕生
- ◆1904年 FIFA創設 ...世界のサッカーの統括団体
- ◆1930年 第1回FIFAワールドカップ開催
- 世界各地に「ミニサッカー」があった**
- ◆1989年 第1回ファイブ・ア・サイド・フットボール世界大会
- ◆1994年
FIFAが、「ファイブ・ア・サイド・フットボール」を「フットサル」に変更
JFAが、「ミニサッカー委員会」を「フットサル委員会」に変更
- ◆1995年
JFAが、各都道府県に「フットサル担当者」を置くよう指示
3つの全国大会を開催
 - ・全日本少年フットサル大会(既存の大会)
 - ・全日本ジュニアユースフットサル大会(新設)
 - ・全日本フットサル選手権大会(16歳以上)(新設)

*U-18年代は当初から、大人のカテゴリーに含めて考えられていた

昼間の仕事を終えて仲間と町へ繰り出し、戻ってきたところでばったり上野さんにお会いし、「今度フットサル委員会に人を出さないといけないんだ。中塚君、やってくれないか」と。

ここから始まっています。

フットサル委員会の仕事は、まずは全国大会予選の開催です。少年の大会は既存のミニサッカー大会の名称が変わったもので、このタイミングで新設されたのはU-15と大人の大会です。U-18については大人のカテゴリーに含めるということで、新たに創設されることはありませんでした。高体連やCY連盟の大会でスケジュールがいっぱいで、手がまわらなかったのだろうと思います。

2. サロン2002の誕生とあゆみ

サロン2002も同じころ誕生します。前述のJFA科学研究委員会の中で主に社会調査を行っていたグループが、「社・心グループ」の名で勉強会を定期的に開くようになりました。80年代後半のことです。

90年代に入ると、プロサッカー誕生の動きが激しくなり、1993年のJリーグ発足につながります。さらに1995年には2002年のFIFAワールドカップ共催が決まり、先ほどのフットサルの誕生もあって、するスポーツとしてもみるスポーツとしても、サッカー周辺が劇的に変化してきます。さらにインターネットが普及し、たとえば月例会案内を郵便ではなく、メールでポンと送れるようになりました。

このような中で、「社・心グループ」の月例会にはさまざまな人が集まるようになり、研究者の集まりだった「社・心グループ」を発展的に解消し、1997年から「サロン2002」の名称で、主に筑波大学附属高校で月例会を行うようになったのです。

サロン2002はゆるやかなネットワークとしてずっと続いていましたが、「これでいいのか」は常に問い続けてきました。そして、「事務局機能を強化したい!」「組織としての姿がみえるようにしたい!」「事業の担い手としての“サロン2002”になっていきたい!」との願いから、法人化の道を歩みます。

右のライドは法人化前の、スポーツ文化研究会サロン2002の様子です。中心も周縁もないゆるやかなネットワークです。具体的な事業にも取り組みますが、理事長の“個人商店”の域を出ることはありませんでした。

法人化の方向性について議論を重ね、特定非営利活動法人(NPO法人)を目指すこととなりました。

サロン2002のあゆみ

JFA科学研究委員会のサブグループ「社・心グループ」が前身
(1980年代後半から定期的に活動)

- ◆サッカー界の劇的变化
 - ・Jリーグ発足
 - ・2002年FIFAワールドカップ共催活動～開催
 - ・フットサルの誕生
- ◆インターネットの普及
 - ・全国各地の“同志”がネットワーク化
 - ・「ネットワーク」を「フットワーク」につなげるマインドと活動

↓

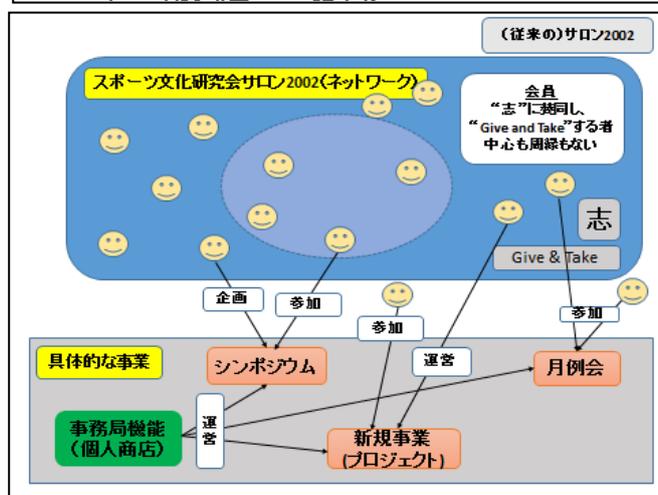
「サロン2002」としてリスタート(1997年度)
2000年度より会員制導入(一口会員は3,000円。それ以上を求める)
2010年度より会費は3,000円/年(それ以上は寄付金扱い)
2013年度は全国に約180名の会員が
主な活動は、月例会、公開シンポジウム、(しわゆる)出張サロン等

サロン2002の“これから” -2013年4月例会資料(一部改稿)

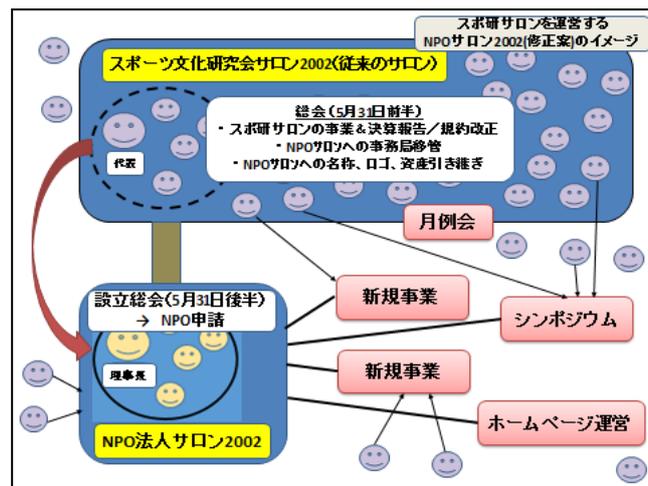
- ◆事務局機能を強化したい!
“プロ意識を持ったボランティア”と、“ボランティア精神を持ったプロ”で運営してきたが、いまのままだと、現状が限界。いま以上を求めるなら、事務局機能の強化は不可欠!
(“中塚個人商店”の限界)
- ◆組織としての姿がみえるようにしたい!
・他の組織と連携を図る際、法的にも対等の姿で対応したい。
・「いったいあなたは何者ですか?」に答えられるように
・補助金等の受け皿となれるようにしておきたい。
- ◆事業の担い手としての“サロン2002”になっていきたい!
・月例会、公開シンポジウム、出張サロンなど、これまでやってきた事業は継続する
→より規模を拡大して実施できる
・“ゆたかなくらし”を志向する良い活動の担い手になりたい
例)DUCリーグの事務局をサロン2002が担う→可能か?
例)「リサイクルプロジェクト」「スキッププロジェクト」を担う→可能か?
例)「オリンピック教育」「U-18フットサル」を他の組織と連携して進める→可能か?

↓

「(NPO)法人化」にいつ踏み切る? → いまでしょ!



途中経過はすべて省略しますが、とにかく2014年5月の総会でNPO法人サロン2002が誕生します。いまでは右のスライドのようになっており、従来のネットワークを運営したり、さまざまな事業の担い手となるできるようになりました。もちろん toto などの助成を受けることもできます。



3. サロン 2002 月例会で取り上げられたフットサル

NPO 法人化以前から、サロン 2002 の月例会ではフットサルが何度も取り上げられています。

以下は月例会で取り上げられたテーマ一覧です。新しいものから遡って記します。

2013年3月の公開シンポジウムは、オーシャンアリーナで開かれた「U-18 フットサルトーナメント」の中日に開いたもので、当時の JFA フットサル委員長と JFF 専務理事が登壇してくださいました。このシンポジウムがきっかけとなって JFA 主催 U-18 大会が始まるという、歴史的なシンポジウムとなったと思います。

ほかにも、トリムカップのはじまりの話や、フットサル連盟のあり方についてプロジェクトチームを作って議論していたことなどが思い出されます。

【参考】サロン 2002 月例会で取り上げられた「フットサル」の話題（2000 年度以降）

- ・2013年3月 公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう！」
http://www.salon2002.net/src/pdf/symposium/2012_sympo.pdf
- ・2012年11月 徳田仁「FIFA フットサルワールドカップ報告会」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2012/2012-11.pdf
- ・2012年9月 山下則之「フットサルの育成と国際交流ードイツ・ジャパン・スポアアカデミーを中心に」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2012/2012-9.pdf
- ・2012年4月 中塚義実「U-18年代のフットサルー2001 東京、2012 名古屋、そして未来へ」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2012/2012-4.pdf
- ・2008年3月 成田十次郎「成田十次郎先生にきくー高知・日本・ドイツのサッカーとトリムカップ」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2008/2008-3.pdf
- ・2008年2月 野口良治「東京都からみた日本のフットサルのこれまでとこれから」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2008/2008-2.pdf
- ・2007年9月 「Fリーグ開幕を祝して乾杯」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2007/2007-9.pdf
- ・2007年4月 中塚義実「地方からみたレディースフットサルの現状と今後ートリムカップ・レディースフットサル大会をめぐる」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2007/2007-4.pdf
- ・2004年4月 中塚義実・本多克己「2004年春のフットサル報告会」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2004/2004-4.pdf
- ・2003年11月 本多克己「フットサル界の現状と課題」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2003/2003-11.pdf

- ・2002年9月 澤井和彦「フットサルプロジェクトII 実施上の問題点」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2002/2002-9.pdf
- ・2001年2月 梶野政志「2001年のフットサル連盟」
http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2001/2001-2.pdf
- ・2000年12月 フットサルプロジェクトI 「フットサル連盟は必要か—21世紀のスポーツと競技団体のあり方」 http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2000/2000-12.pdf
- ・2000年10月 フットサルプロジェクトI 「サロン2002 フットサルプロジェクト1の展望と課題—フットサルの現状と連盟の意義」 http://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2000/2000-10.pdf

【参考】サロン2002「フットサルプロジェクト」立ち上げ宣言

サロン2002会員各位

2000.10.2.(中塚義実)——一部改編

サロンのフットサルプロジェクトの立ち上げを宣言します。サロンにとって最初のプロジェクトでもありますので、今回の立ち上げに至った手順を先にご説明し、次にプロジェクトの概要を紹介いたします。参加してみようという方は、プロジェクト事務局を担当していただく川前真一氏にメールで申し込んで下さい。プロジェクトの第1回会合は10月17日(火)19:00より、筑波大学附属高校会議室で行います。10月例会は本プロジェクトからの話題提供とします。

<プロジェクト立ち上げの手順>

- 1) 解決すべき課題の存在
- 2) その課題をサロンで(サロンの人材で)解決しようと考え、行動を開始する発起人の存在
- 3) 発起人によるプロジェクト概要の検討
- 4) 発起人から会員へ向けての、プロジェクト立ち上げの通知及びメンバーの募集
- 5) プロジェクトの活動開始
- 6) 何らかのアウトプット

サロンの公認プロジェクトであるためには、このプロセスのどこかの段階で役員会の承認が必要。

<今回提案するプロジェクトについて>

今回提案するプロジェクトは、既に3) までは進行している。最初のプロジェクトでもあるし、会員全体に対してアナウンスしたいということもあるので、現段階、すなわち3) と4) の間で役員会での承認を求めたい。

<プロジェクト概要>

プロジェクト名：サロン2002フットサル・プロジェクト1 (F)

発起人：川前真一(東京ベイフットサルクラブ)、

野口良治(東京都サッカー協会)、

中塚義実(東京都サッカー協会フットサル委員)

目的：首都圏のフットサル事情、および21世紀のスポーツ組織のあるべき姿を探りながら、「東京都フットサル連盟」設立への有効なアドバイスを行う。具体的には、以下のレポートを作成し、(財)東京都サッカー協会へ提出する。提出期限は、1については12月末まで、2については3月末まで(このタイミングであれば、2001年度設立の準備資料として有効)

1-1) 東京におけるフットサルの現状と課題

フットサル人口・施設等のデータ/参加者のニーズの把握など

1-2) 連盟設立の意義(どういう連盟なら意義があるか)と組織(登録の仕組みなど)試案

2) フットサル連盟の運営と今後の方向性

期間：2000年10月～2001年3月

背景：日本におけるフットサル振興政策の推進母体である日本フットサル連盟は、2000年度より改組再編され、各都道府県連盟を統括する団体となった。これを受けて各都道府県でも「フットサル連盟」を組織すべく動いているが、兵庫県など一部の例外を除けば、必ずしも実情に合った組織化が進んでいるとは言いがたい。

東京都サッカー協会フットサル委員会では、1999年度末より連盟設立準備委員会で検討を進めてきた。東京では民間施設が先行してフットサルに取り組んできた事情もあり、従来の競技団体的思考に基づいてフットサル連盟を設立させるには無理がある。また、21世紀にふさわしいスポーツ組織のあり方の検討も不可欠である。そのためにも「協会関係者」だけでの検討には限界がある。

サロン2002の会員には、フットサルにかかわっている方が大勢いる。これらのパワーを結集すれば大きな力となるだろう。サロン2002のプロジェクトとして立ち上げようとした意図はここにある。

まずは具体的な課題からということで、「東京」を対象として検討したい。プロジェクトにおける課題はできるだけ具体的な方が良いということと、東京に人材が集中しており、取り組みやすいと考えたからである。ただし他地域、他種目の情報は不可欠であるし、今後これらへの展開も期待できる。

<今後の可能性>

本プロジェクトの方法論を用いて、他の地域を対象に、あるいは他種目を対象に新たなプロジェクトを立ち上げることは可能である。またフットサルに関連しては、今後も様々なテーマを見出すことができよう。「フットサルプロジェクト1」の活動を続ける中で次の課題が見つければ、「フットサルプロジェクト2」として新たにプロジェクトを立ち上げ、メンバーを募集する。このような形でプロジェクト自体を進めながら、様々なアウトプットと、かかわった人たちのネットワークづくりが可能。

II. U-18 フットサルのあゆみと現状

1. 東京都における U-18 フットサル大会（中塚）

2000年度末の東京都サッカー協会(TFA)フットサル委員会で、3種部会長の徳田仁氏((株)セリエ)が「都内の民間施設で高校生が大勢プレーしている」という話をされました。サッカー部をはじかれた高校生が、学校ではできないので、都内にでき始めた民間施設でフットサルを楽しんでいるとのことでした。

私の勤務する筑波大学附属高校でも、W杯フランス大会出場が決まったころから昼休みサッカー人口が激増し、サッカー部の中にフットサル部門ができ、昼休みの「校内フットサル大会」を企画するようになっていました。また高体連の大会で、部員不足から出られないという学校が目立つようになり、「フットサルなら出られるのに」と思ったものでした。

こうした意見交換をする中で、TFA 公認の U-18 フットサル大会を開こうということになり、2001年夏、小金井市総合体育館ではじめてのフットサル大会が開かれました。その年の冬にも大会を開き、それ以降、年2回の U-18 大会は東京都で定着していきます。

東京都における
U-18フットサル大会創設の経緯
それは2000年度末、フットサル委員会の議論から始まった

- ◆「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」
↳ 潜在的なフットサル人口の存在
- ◆「いくつかの学校ではフットサル同好会ができている」
・筑波大学附属高校サッカー部に「フットサル部門」創設(1997)
・同校において校内フットサル大会(TFC杯)開始(1998)
↳ 学校におけるフットサルの可能性 ↳ 仕掛ければ広まる!
- ◆「高体連のサッカー大会で、
人数不足により参加できないチームが増えてきた」
↳ 11人は無理でも5人ならサッカーとの共存・共栄

↓

★2001年度事業として、夏にU-18フットサル大会を開催しよう!
★「東京都ユース(U-18)サッカーリーグ(仮称)」と連動させよう!

<p>東京都FA主催 U-18公認フットサル大会(最初の2年間)</p> <p>■2001年度</p> <p>夏...第1回東京都ユース(U-18)フットサル大会 ・初心者でも参加でき、最後まで楽しめる競技会に! ・「第51回 社会を明るくする運動」事業として開催</p> <p>冬...第1回東京都フットサルチャレンジ(U-18) ・サッカークラブも、オフシーズンのトレーニングとして参加 将来的には、真のフットサル東京一を決する競技会へ ・スケジュール問題と会場確保の問題</p> <p>■2002年度</p> <p>夏...第2回東京都フットサルチャレンジ(U-18) ・名称と大会の趣旨を合致させる</p> <p>冬...第2回東京都ユース(U-18)フットサル大会 ・U-15、U-18同時開催により、ユース年代の交流促進! ・判定に対するトラブル続出! ・学校教育活動か、地域のスポーツ活動か</p>	<p>U-18大会をはじめてどうなったか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの頃は「やんちゃな奴ら」が「多様なチーム」で参加 ・「責任能力のある大人」の帯同を求める(今でも) <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のフットサル部・同好会、地域のフットサルクラブが増え、レベルが上がってきた。 ・この大会のために編成された「多様なチーム」も参加。 ・冬の大会にはサッカー部、サッカークラブも参加。 ・「もっとやりたい者」「もっとやらせたい者」が増えてきた <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京の取り組みを全国に発信しよう! ・発信しながら、今後の方向性をさぐる!
---	---

U-18 大会をはじめた当初は、「やんちゃな奴ら」が「多様なチーム」で参加する、運営側としてはやりにくいものでした。不平不満を審判や相手にぶついたり、ものを壊すことはしょっちゅうでした。「責任能力のある大人」についてもらい、ともに指導していくことを代表者会議で訴え続け、少しずつ変わってきました。そしてそのうち、年2回の大会だけでは物足りなくなるところが出てきはじめ、「リーグ」の組織につながっていきます。

2. 全国へ向けての情報発信と U-18 リーグ (中塚)

同じころ、この試みを全国に発信するチャンスがありました。JFA のトライアル FA 制度で、これに応募して補助金をもらい、自分たちの取り組みを冊子にして全国に発信することを3年間続けました。担当者が集まるジョイント・ミーティングでも東京都の U-18 大会の取り組みを紹介し、いくつかの県から「うちでもやってみます」という声をいただきました。

<p>外部への情報発信① — トライアルFA制度の活用(2005~2007) —</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆JFA・トライアルFA制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」 2005~2007 「東京都におけるU-18フットサル大会」 ◆報告書の作成 ・2005年度...2001~2005の事業をまとめた活動報告書作成 ※毎回作成していた「大会報告書」が役に立った ・2006年度...ユース(U-18)大会の運営を中心に報告書作成 ・2007年度...U-18プレリーグの試みを紹介 ◆報告書の配布とU-18大会の認知度アップ ・高体連、CY連ほか、都内の関係機関に配布 ...まずは都内での認知度を高める ・M7ジョイント・ミーティング(2006横浜、2007大阪) ...U-18大会に関して、いくつかの都道府県が興味を示す 	<p>外部への情報発信② — JFA支援制度の活用(2008~2010) —</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆JFA・支援制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」 2008~2010 「東京都ユース(U-18)フットサルリーグの創設」 ◆U-18リーグ創設の気運 ・「もっとやりたい!」 → 定期的な試合の場の確保 ・「もっとうまくなりた、強くなりた!」 → 競技力向上のためにクラブを超えた交流会、選抜チームの可能性 ・「もっと広げていきたい!」 → 他の都道府県との交流・拡大 ※自主運営できるか? 会場は? 審判は? 責任の所在は? <p>↓</p> <p>とにかくリーグ戦をやってみよう! “公認リーグ”の可能性と課題もみえてくるはず...</p>
---	--

都内では、年2回の大会では飽き足らず、「もっとやりたい」「もっとうまくなりた、強くなりた」と思うプレーヤー、チーム、クラブが徐々に生まれ、互いに練習試合をする機会が増えました。

そのようなニーズを持つクラブが集まって2007年度にプレリーグを行い、2008年度からはTFA公認リーグとして実施され、今日に至ります。

<h3 style="text-align: center;">東京都U-18フットサルリーグ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆2007年度にプレリーグ ◆2008年度から、TFA主催の公認リーグ ◆2012年度の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・1部・2部各6チーム、計12チーム(11クラブ) ・10～12月に1回戦制。4～6月に交流戦・審判講習会(高校生審判) ・主会場はフリスコフットサルアケとしまえん。筑波大附属高校体育館等 ・1部階結果... 優勝: フットボウズフットサル 準優勝: 府中アスレティックFCユース 第3位: 東京成徳大学高校フットサル同好会 ・リーグ選抜... 12月に韓国遠征(大会に参加) 3月に神奈川県選抜と交流戦 <p style="text-align: center;">「もっとやりたい」から自主運営！＝リーグの原則 ⁷</p>	<h3 style="text-align: center;">「はじまりの10年間(2001～2010)」と、「次の10年間(2011～2020)」の位置づけ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆「はじまりの10年(創設期)」は、「都内」で立ち上げ、育てた期間 立ち上げ、育てたのは、 <ul style="list-style-type: none"> ①普及目的の夏の大会 ②競技志向の冬の大会 ③フットサルリーグ <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を志向する <ul style="list-style-type: none"> ①横への広がり ... “関東”そして“全国”への拡大 ↳ 隣県との交流から全国大会の開催へ ②縦への広がり ... “底辺”から“頂点”までの拡大 ↳ 多様なレベル・ニーズに応じた事業 <p style="text-align: right;">8</p>
---	---

リーグ戦は自主運営が基本です。東京都の場合、審判は派遣に頼るのでなく、高校生が資格を取って割り当てられた試合を担当するようにしています。ユース審判は育つし審判費を安く抑えることができるメリットはありますが、しっかりと笛が吹けないこともあり、なかなか難しいところです。

会場確保も大きな課題です。公共体育館や民間施設を借りていますが、互いのスケジュール調整が難しく、思うように試合が消化できません。学校体育館が使えるとよいのですが、既存の体育館種目が強く、フットサルで利用できる学校体育館はなかなか増えていきません。

学校運動部では夏休み前に3年生が活動を停止し、チーム編成がガラッと替わります。年度当初は新入部員が入ってくるかどうかで、リーグに参加できるかどうか左右されます。シーズンをどこに持ってくるかも大きな課題です。

このように、はじまりの10年間(2001～2010)は、“都内”で立ち上げ、育てた期間であり、次の10年へ向けて「横と縦への広がり」を志向することを、TFA フットサル委員会主催「U-18 フットサル大会10周年記念シンポジウム」で述べました。2011年2月5日のことです。

3. U-18 全国大会開催へ向けて (本多)

<h3 style="text-align: center;">(プレ)全国大会開催へ向けて</h3> <p style="text-align: center;">それは本多氏の訪問から始まった</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆民間レベルのU-18大会 1)「夏高フットサル」の試み <ul style="list-style-type: none"> 2008年8月「第1回夏の高校生フットサル大会」(フジテレビ系) 2010まで開催。2011は「震災の影響で」中止 「学校名」を出して「学校単位」で出場 「春高」/「夏高」/「高校生クイズ」のイメージだろうが、「フットサルの理念」からはかけ離れている(中塚考) 2)「ホンダカップ」でユース(U-18)カテゴリー(はじまる(2010)) 3)その他 ◆サッカー協会公認大会 → 東京を含め、いくつかの県ではじまる ◆高体連 → フットサルには及び腰? <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: center;">2011年9月 於筑波大学附属高校体育教室 本多・中塚 作戦会議 「将来的に公式大会」となるような全国プレ大会を開けたいだろうか」</p>	<h3 style="text-align: center;">サッカーキングカップ</h3> <h4 style="text-align: center;">U-18フットサルトーナメント2012</h4> <p style="text-align: center;">2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■主催 : 株式会社フロムワン、株式会社シックス ■後援 : 一般財団法人日本フットサル連盟 全国9地域フットサル連盟 ■協力 : 財団法人愛知県サッカー協会 愛知県フットサル連盟 名古屋オーシャンズ株式会社 ■特別協賛 : サッカーキング ■協賛 : 株式会社ナイキジャパン 株式会社日本ツアーサービス <p style="text-align: right;">10</p>
--	---

<p style="text-align: center;">サッカーキングカップ U-18フットサルトーナメント2012 2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ</p> <p>優勝 名古屋オーシャンズU-18(愛知県) 準優勝 作陽高校(岡山県) 第3位 松山工業高校(愛媛県) 第4位 国学院久我山高校(東京都) 第5位 京都橘高校(京都府) 第6位 VAINFC伊達U-18(北海道) 第7位 A.C.アズーリ(宮城県) 第8位 熊本県U-18フットサル選抜(熊本県) 第9位 日本ウェルネス高校松本校(長野県)</p> <p style="text-align: right;">11</p>	<p style="text-align: center;">2012年度のU-18フットサルの動向</p> <p>◆3月の「レ大会」をめぐる動きがはじまった！ ・次回も日本フットサル連盟の後援で。あせらず、あわてず、着実に ・参加チームのおひざ元ではいくつかの動きが...</p> <p>◆U-18フットサルの競技会が各地で増えてきた！ 1) 高校生フットサル 北澤CUP inウイダーFリーグ ・2012春...6月13日 於代々木フットサルコート(人工芝) ・2012夏...8月26日 於テバ・オーシャンアリーナ Fリーグ主催 2) 招待大会 ・大阪府ユース(U-18)フットサル大会(第8回) 府中アスレが優勝 ・クラークカップU-18フットサルフェスティバル</p> <p>※U-18フットサルにとっては追い風。まずは成り行きを見守りたい ※「グランドデザイン」を描くことが大切</p> <p style="text-align: right;">12</p>
---	---

<p style="text-align: center;">U-18フットサルトーナメント2013 2013年3月30日～31日 於テバ・オーシャンアリーナ</p> <p>■主催：一般財団法人日本フットサル連盟 産経新聞社 ■主管：公益財団法人愛知県サッカー協会 愛知県フットサル連盟 ■後援：公益財団法人日本サッカー協会 全国9地域フットサル連盟 ■協賛：サッカーキング、プーマジャパン株式会社</p> <p style="text-align: right;">13</p>	<p style="text-align: center;">「U-18フットサル」のこれから</p> <p>■いつ？ シーズンは？ → サッカー(既存の競技会)とどうすり合わせるか 曜日は？ 時間帯は？ → リーグ戦を行う際に調整が必要</p> <p>■どこで？ 体育館？ 人工芝？ → 学校体育館をどうやって開拓するか</p> <p>■誰が？ サッカー部員？ フットサルに特化？ 「U-18」とは誰のこと？(高校生？第2種？ 18歳未満？以下？)</p> <p>■何を？ = 「フットサル」にはどのような条件が必要？ ボール？ ルール？</p> <p>■どのように？ 公と私の違いは？ 担い手(組織)は？ 高体連との関係は？ 14</p>
---	--

本日開催されたユース選抜は、2012年に創設された「U-18フットサルトーナメント」の流れを汲むものです(注：この位置づけについてJFFとNPOサロンの間の認識にずれがあるのが現状です)。当時、JFAでも、JFFでもU-18世代の大会が必要だという話はあったようですが、関係者の方と情報共有するなかで、「協会・連盟の外で大会をつくって、それを公式な大会に発展させていく方が話が早そうだ」ということで、大会を立ち上げました。当時、サロンは法人格を持っていませんし、資金的にも大会を担うことはできませんでしたので、シックスとフロムワンという民間企業2社が主催となりました。JFAの主催大会ができるまでは5年かかるだろう、という話をしていましたが、2014年には全日本ユース(U-18)フットサル大会として、JFA主催のこの世代の日本一を決定する大会が誕生しました。

ユース選抜大会の「選抜」は、複数チームから選抜されたチームによる大会という意味ではなく、高校野球の選抜のように地域ごとに代表チームを選抜する、ということで、各地域のリーグ開催などの取組み状況に応じてチームを選抜してもらおうという趣旨ですが、今後は複数チームからの選抜という方向に向かうことになるかもしれません。

過去にJFFでスポーツ振興くじ助成が受けられないことがあり、法人格を取得したサロンが代わりに助成対象となることを視野に入れて、サロンが共催となっています。現状では、JFFで滞りなく助

成を受けておられますので、サロンとしては共催ではなく後援などとして参画していくことも考えられます。

これらの2大会の成立は非常に大きな進歩でしたが、高校サッカー部勢の出場も多く、「日常的にフットサルをプレーしているチーム、選手による大会」が望む声が聞かれるようになりました。その声を受けて、今年1月に「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」としてサロン主催の大会が生まれました。現状では8都府県のみでリーグが開催されており、JFA、JFF 主導での大会開催は難しいだろうということで、サロンが主体となってスポーツ振興くじの助成を受けて開催しているものです。ただ、永続的にサロンが担っていきたいということではなく、この大会が各地域にリーグが整備されるきっかけとなり、やがては公式な大会として開催されるようになれば、と考えています。先ほどのユース選抜と同じく、開催されるべき大会、開催が望まれる大会があり、それを成立させるためにサロンが主催や共催などの役割を担っている、という考え方です。

リーグチャンピオンズカップの発信するメッセージとしては、「日本一を決めましょう」ではなく、「地域でリーグ戦をやってください」ということです。「この大会を機に各地に U-18 リーグが整備され、日常的にフットサルを楽しめる環境が整備されていくことを願う」ということです。

第1回大会は11月に助成が決定して1月に開催ということで、主管の静岡県の協会・連盟の皆様には大変な無理をお願いすることになりましたが、エコパアリーナという素晴らしい環境で、心のもった運営で応えていただきました。優勝は地元静岡の Hero、準優勝は隣県の神奈川のロンドリーナで、得点王にはエンフレンテ熊本の内田くんが輝きました。熊本は2012年の大会にもリーグ選抜を派遣されるなど、早くから U-18 フットサルに取り組んでおられます。当時の監督の「熊本にできたのだから、他の県でもできると思ってもらえるはず」というコメントが思い出されます。

第2回大会は来年の1月に開催を目指して、スポーツ振興くじ助成の申請を行っています。新たなリーグ開催を期待して、12チームでの開催を目指しています。

これらの大会のほかにも、ホンダカップやグリーンアリーナ神戸での大会など、多様なチームが参加できるフェスティバル形式の大会によって同世代のチームでの競技の機会が確保されるようになっています。

4. 各地の現状（情報交換）

橘：富山県 U-18 選抜の監督の橘です。昨年から富山の高体連のサッカー専門部のフットサル担当となり、富山県の U-18 大会の整備を行い、リーグ戦も開催できるようになりました。プレリーグとして3年開催していますが、会場、審判がネックになっています。東京の発足時はどうでしたか。

中塚：東京では当初から高校生が審判をやっています。審判講習会を行って、高校生に資格を取ってもらっています。高校生はファールを取れない問題はありますが、高校生がプレーして、笛を吹く、ということで定着しています。ピッチの設営などもすべて高校生がやっています。リーグ戦はやりたい人が集まって開催するわけですから、自分たちでやる、です。

大友：賀川さん、中塚先生、本多さんなどと一緒にこの世代の競技環境を良くしていこうと活動しています。武相高校フットサル部顧問の大友です。まずはチームの立場から関わっておりますが、今

年から神奈川県フットサル連盟の理事長に就任することになりました。キャプテンズ・ミッションのトライアル FA としてリーグ戦が推奨されるなかで、神奈川はプレリーグなしで、最初からオフィシャルな大会でしたので、審判は連盟からの派遣でした。神奈川は常時 100 人程度の審判がいるので大きな苦労はありませんでした。現在はリーグ出身で大学生の 3 級審判もいるので、平日でも開催ができます。主審は連盟、その他は帯同で 10 年間やっています。

橘：まず審判の数が少ないので、ユース審判の育成に取り組んでいます。フットサル審判インストラクターが 10 名程度なので、その確保も難しいです。来年度の全日本ユースについては、帯同ありなしで参加費に差をつけるようにしたいと思っています。2016 年は全日本ユース予選参加が 8 チームだったのが 12 チームに増えており、今後も増やしていきたいと思っています。プレリーグ参加は 10 チームでした。プレリーグには参加するが、全日本予選には出場しないチームもありました。フットサルの魅力や、フットボーラーとしての成長を促されるという点をアピールしていかななくてはならないと思います。

永松：大阪選抜の監督の永松です。梅南 FC というフットサルクラブを運営していましたが、全国大会につながっているのはホンダカップと全日本ユースだけでした。全日本ユースの大阪代表にもなり、ホンダカップ全国 2 位にもなりましたが、中学を卒業する段階で、フットサルを続けても試合がない、という状況でした。そんななかで神戸国際大附属高校の塚田先生と関西でもリーグができないかという話になりました。本多さんとも相談して進めていくなかで、「関西」という名称は使ってはならない、ということになり、また大会に参加してくれていた作陽高校も一緒にやりたいということで、「WEST」、それにプレをつけて「U-18 フットサル WEST プレリーグ」としてスタートしました。協会の役員にもご挨拶に行きました。「君らが会場を使うと、フットサルが使ったと見られるんやから、ちゃんときれいに使えよ」とアドバイスをいただきました。2013 から 2015 年まで続けて、チームの出入りもあり、大阪成蹊大の 1 年生が参加したこともありました。プレリーグの選抜をつくって、東京や神奈川の選抜との交流戦に出場させていただいたこともありました。

そして 2016 年から 5 チームで大阪府のリーグを開催できることになりました。会場の体育館はぼくが全て抽選でとりました。全ての試合に立ち会いました。たくさんの方が期待してくれて、教えていただいて 1 年を乗り切りました。設営、審判などはすべて帯同でやっています。協会も「資格を与えるためではなく、実際の試合をコントロールするための講習会」を U-18、女子、社会人 3 部を対象に開催してくれます。ピッチの設営や試合データ入力なども含めた運営講習会を来年度の開幕に向けて実施する予定です。大阪成蹊大の柴沼先生などとも話をし、大学生が自分たちで運営している学生リーグを参考にさせていただいています。1 学期に 1 回戦、2 学期に 2 回戦として、受験生にも負担にならないようにと考えています。

本多：地元にながら、大阪のリーグの進化に改めて驚かされています。永松さんと塚田さんから「全国大会をやっているんだから地元のリーグもお願いします」と言われたときに、「ホンダカップのようなカップ戦はやるけども、リーグ戦は当事者が運営するもの」という話をしました。サロンなどで中塚さんからいつも聞かせてもらっている話の受け売りですね。

橘：富山県の高校サッカーは大人が審判をしていて、顧問の先生のなかには「フットサルの審判までやるのか」という声があるので、やはり高校生に資格をとってもらわなければいけないと思います。

U-18 リーグに所属している選手は基本的にフットサル連盟に登録していません。フットサルのクラブチームの数名のみが登録を行っているという状況なので、社会人主体の連盟としては、なぜ

U-18 のチーム、リーグに出費しなければならないのかという議論はあります。連盟主催のリーグになれば、選手の登録費が発生するので、それが財源になっていくと思います。

大友：全日本ユースができたことはすごくうれしいことなのですが、問題も生まれてきています。東京・神奈川はフットサル専門にやっているチームが 10 チーム以上あって、埼玉は来年からリーグを行う予定と聞いていますが、その他の県はリーグがありませんので、高体連のサッカーが主になって全日本ユースの予選が行われています。サッカーは一年中試合があるので、予選の開催時期も難しくなってきました。神奈川では全日本ユースの関東予選とサッカーの選手権の県の一次予選が同日になってしまいました。またサッカーは1校2チームというしぼりがなくなったので、出場チームが増えていく傾向もあります。神奈川はそんな状況なので、サッカー部がフットサルに取り組むのは難しいという状況です。ただ、人口も多いので、フットサル専門のチームもそれなりにあるとは言えます。今後は、高体連、フットサル連盟、クラブユースサッカー連盟のどれが主になって運営されていくのかは、都道府県によって異なっていますし、今後も違った道を進んでいくと思います。

Ⅲ. これからの U-18 フットサルと NPO 法人サロン 2002

<NPO 法人サロン 2002 理事会 2016-5 (2017年3月10日) 資料より転載>

「U-18 年代のフットサルは、オフィシャル大会の整備が遅れたこともあり、サロン 2002 会員が積極的に支援してきたカテゴリーです。2014 年度の NPO 法人化以降は事業の担い手として、より積極的に関与するようになりました。ここ数年で急速に整備が進んだ U-18 フットサル。“理念”を掲げて“熱き思い”で突っ走ってきましたが、これからは“現実”を見据えた上で、多くの方の理解を得ながら“継続と発展”を目指していく段階です」(3月例会案内より)

このような問題意識を持ちながら、2月24日(金)10時から小一時間、JFAにて(一財)日本フットサル連盟(JFF)事務局の松井氏とミーティングを持ちました。NPO 法人サロン 2002 にとっても検討すべき重要な内容が含まれますので、理事会で検討したいと思います。ご確認の上、あらかじめご意見をいただけると幸いです。

1. U-18 年代のフットサル

- ◆2001 年度 東京都サッカー協会主催の U-18 競技会はじまる(年2回のトーナメント)
(中略)
- ◆2011 年度(2012年3月) サッカーキングカップ U-18 フットサルトーナメント 2012(名古屋)
(株)FROMワンと(株)シックス主催。全国 9 地域から単独チームが参加して初の「全国大会」。JFF は後援。
- ◆2012 年度(2013年3月) U-18 フットサルトーナメント 2013(名古屋)
JFF と産経新聞社主催。「JFF からの持ち出しなし」という条件で JFF は主催した。
公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう」を開催
- ◆2013 年度(2014年3月) U-18 フットサルトーナメント 2014(駒沢)
JFF と産経新聞社主催で単独チーム大会。産経の費用負担と toto 助成により「JFF からの持ち出しなし」の予定であったが、スポーツ振興センターへの報告を行ったところ、一部の経費で助成対象経費として認められず、助成金は受給できたものの予定額より減額となった。
- ◆2014 年度 夏 ⇒ 単独チームの全国大会が JFA 主催となる
夏～秋⇒ 春の大会についての議論。JFA との差別化を図るために選抜大会へ。ただし地域

によって温度差があるので「地域で選抜されたチームであれば単独でもよい」とした。JFAからは「なぜ単独チームが出られるのか。差別化が必要」との意見があったが、「個人が目標にできる大会にする」との説明で納得してもらった。2014年度事業としてJFFでは計画をしていなかった本大会であるが、JFF理事会に新設大会として提案され、実施の決定が秋になったので toto 申請には間に合わず。本大会の共催者であるサロンとの協議により「JFFからの持ち出しなし」として、協賛社を獲得し大会事業費を捻出することで計画された。

春（2015年3月） GAVIC CUP U18 フットサルトーナメント 2015（墨田）

◆2015年度 夏 JFA 主催 / 春（2016年3月） GAVIC2016（墨田）

JFFでの toto 助成申請を行ったが、採択されることが難しい可能性があり、NPO サロンでの申請を視野に入れてサロン 2002 が共催となった。株式会社シックスから 1,494,875 円の資金提供を受けて、NPO サロンが同額を負担した。

◆2016年度 夏 JFA 主催 / 春（2017年3月） GAVIC2017（墨田）

加えて2017年1月、NPO サロン主催で U-18 リーグチャンピオンズカップ 2017（エコパ）それぞれ JFF、NPO サロンにて toto 助成を受けて開催。

◆2017年度 夏 JFA 主催 / 春（2018年3月） GAVIC2018（和歌山）

2018年1月、NPO サロン主催で U-18 リーグチャンピオンズカップ 2018（名古屋？）それぞれ toto 助成申請済。

◆2018年度以降…

JFA 主催の全国大会（単独チーム）は続いていくが、「ユースフットサル選抜トーナメント」の実施については、GAVIC の4年契約が終了するので改めて判断が必要。

2. 日本フットサル連盟の考え

JFF の財源で大きいのは1種の登録費。ユースへの先行投資の重要性はわかっているが、それよりもいま JFF の中で優先順位が高いのは、F リーグ・地域リーグ・大学リーグといった1種の競技会。もともと U-18 は toto からの助成や協賛社の獲得、共催者からの支援などで「JFF からの持ち出しはない」という条件で始まっている。

12 チームの全国大会となると運営費（審判・会場・スタッフの人件費等）、旅費・交通費で300万、その他大会に係る経費などを積算すると計700万円にはなってしまう。現状、U-18 大会では旅費・交通費について大会事業費から補助が捻出できていない。大会協賛などの収入が200万円ほど獲得できれば、toto からの助成金とあわせて「持ち出しなく」を事業運営できる。

2017年度は選抜大会を続けられるが、大会の位置付け、大会事業費の捻出、第2種のフットサル登録人口の増加策など、地域・都道府県におけるユース年代のフットサルの取り組みなど全国的に足みをそろえて考えて、時間を掛けて協議すべき事項がある。

その中で、「ユースフットサル選抜トーナメント」について、NPO サロンが主催した「U18 フットサルリーグチャンピオンズカップ (U18LCC)」との関係について、NPO サロンが現時点において両大会の主催、共催となっていることから、先に開催されている「選抜大会」の継続可否について議論され結論がでていないなかで、ユース年代の取り組みとしての理念は理解できるが、いま何を育てたいのかを考えた時に NPO サロンが U18LCC に注力するのは、先にも示したとおり地域や都道府県の整備が優先される事項になるのではないかと。

3. NPO 法人サロン 2002 の考え（未完）

◆要は「お金」が足りないということです。さてどうしたものか…

理事会で議論しますが、お金が降って湧いてくるわけでもないのでは…

けど、このような事情を各地域のリーグ関係者に伝え、「それぞれの地域でお金を集めてリーグを盛り上げよう」というムーブメントにつなげていくことができればと思います…（中塚のぼやき）

◆サロンが共催に入ったのは、JFFで toto 助成を受けることができない可能性を受けてのものでした。サロン 2002 としての認識は「開催に向けての資金確保のために、助成金が必要であり、その要件確保のために共催となった」ことを確認していく必要があると思います。議事録にも記載されています。http://www.salon2002.net/src/pdf/reports/2015/rijikai2015_2.pdf

今年は根回しレベルで 8 リーグを確定しましたが、今年は立候補する、あるいは立候補に向けてリーグの設立を検討する県が増えてくるはずなので、早めに「要項案」が必要で、その段階ではリーグ名を明記できずということになります。サロン 2002 として「参加リーグ募集案内」（参加リーグ決定の手順を記載）と「要項案」を作成して、各地域連盟に発信（発信先は JFF に確認できるとありがたい）でしょうか。（本多氏より 3/6 付）

補足資料. 富山県の U-18 フットサル

＜筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブ発行

「茗友 SC 通信 2017 年 3 月号」（2017 年 4 月 2 日発行）より転載＞

3. 高校生年代のフットサル

3 月 28～30 日、東京都墨田区総合体育館にて、日本フットサル連盟主催、NPO 法人サロン 2002 共催で「ユースフットサル選抜トーナメント 2017」が開かれました。全国 9 地域から「選抜」された 12 チームによる熱き戦いは、2 年連続で新潟県選抜と東京都選抜 A の決勝となり、これまた 2 年連続で PK 戦にもつれ込み、新潟県 U-18 選抜が優勝しました。おめでとうございます。

前年度優勝が新潟県だったため、今回、北信越からは 2 枠あり、優勝した新潟県選抜とともに富山県選抜が出場しました。そのチームを率いたのは筑波大学 32 期生の橘和徳氏です。中日に開かれた NPO 法人サロン 2002 の月例会（通算 247 回目）にも参加され、「U-18 年代のフットサルの現状と今後」について夜遅くまで意見交換しました。せっかくなので「茗友 SC 通信用に何か書いてもらえないか」と打診したところ快く引き受けてくださり、何枚かのスライドにまとめてくださいました。

◆富山県 U-18 フットサルの現状とこれから

（公社）富山県サッカー協会 2 種委員会 フットサル担当

富山県高体連サッカー専門部フットサル担当／富山県フットサル連盟 強化普及部

橘 和徳（県立富山いずみ高等学校）

安村 良紀（県立南砺福野高等学校）

義浦 靖貴（県立南砺福野高等学校）

◆全日本ユース（U-18）フットサル大会 富山県大会

2014 年度（第 1 回）… 3 チームによりリーグ戦形式で代表決定（2014 年 6 月開催）

2015 年度（第 2 回）… 1 チームのみの参加申し込みのため、予選なしで北信越大会に推薦

2016 年度（第 3 回）… 8 チームによるトーナメント形式で代表決定（2016 年 6 月 11 日開催）

2017 年度（第 4 回）… 予選ラウンド→12 チーム/2 グループのリーグ戦（2017 年 2 月 11、12 日開催）

決勝ラウンド→4 チームによるトーナメント形式で代表決定（2017 年 6 月 11 日開催）

◆富山県 U-18 フットサルプレリーグ（非公認大会）

2014 年度 … 8 チームで開始（南砺市井波社会体育館）冬場のトレーニング充実のため。

南砺福野、砺波 A、砺波 B、砺波工業、アレスグーテ砺波、不二越工業 A、不二越工業 B

- 2015年度 … 8チームで開催（南砺市井波社会体育館）前年度踏襲。輪が広がる。
南砺福野、砺波、砺波工業、アレスグーテ砺波、福岡、高岡南、不二越工業、八尾
- 2016年度 … 高体連事業として東西リーグとし、12チームで開催→上位、下位トーナメントを開催
WEST（南砺市井波八乙女体育館）
南砺福野、砺波、砺波工業、福岡、高岡南、アレスグーテ砺波
EAST（日医工スポーツアカデミーアリーナ、富山中部高校体育館）
不二越工業、龍谷富山、富山中部、富山いずみ、新川、入善
- 2017年度 … 前期、中期、後期に分けて開催予定。（開催時期、会場、参加チームなど検討中）

◆担当種別、担当者

- 富山県は2種と高体連がほぼ同じ組織。クラブユースはカターレ富山のみ
- 2013年度
2014年度 2種高体連フットサル担当 安村
2015年度 2種高体連フットサル担当 安村
2016年度 2種高体連フットサル担当 安村 橘

◆開催における悩み

- ・フットサルのルール（競技規則、サッカーとの違い）を知らない
→選手、保護者含めてフットサルの試合を見る機会がない
- ・高校生審判員が頼りない（ファウルを取れない）
- ・会場の確保が困難（広さ、ゴール、ライン、キック禁止 等）
- ・交通手段（車社会の土地柄、交通網が・・・）
- ・サッカーのリーグ・カップ戦日程の過密化
- ・フットサル活動への理解不足（夜間開催できない 等）

◆富山の強み

- ・コンパクトな県であること（集まりやすい）
- ・U-18、23 フットサルトレセン（連盟主催）月1開催
- ・県立高校には体育館が2つある
- ・冬場のトレーニングとして取り入れたいという指導者が多い
- ・4種で経験している選手が多い

◆富山の弱み

- ・3種で経験しない選手が多い
- ・フットサルへの理解が低い
- ・冬場は暖かい地域へ遠征する文化
- ・体育館の数、開放してくれる学校体育館の少なさ
- ・フットサル 指導者（フットサルC級コーチ）が少ない
- ・フットサル審判が少ない
- ・フットサル審判インストラクターが少ない

◆U-18 フットサルの普及ロードマップ

- 参加チームの増加のためには、①ルール（審判）の普及、②運営面の普及、③フットサルの価値の

向上が必要になると考えられる。

- ①11月～1月プレリーグにてフットサル審判インストラクターによる『ユースレフェリー講座』を開設。1名以上の参加を出場条件とし、4級審判を育成。→2月の全日本ユース（U-18）県大会予選ラウンドにて帯同審判を出場条件とする。帯同できないチームは審判派遣費を参加費に上乗せ。帯同審判を「当たり前のこと」としていく。
- ②プレリーグでの運営を参加者の自主運営に任せる。フットサルに必要な運営面を「当たり前のこと」としていく。
- ③選抜大会、全日本ユース、リーグチャンピオンズカップに出場するチームを輩出し、全国を意識したチームが現れるよう、県内サッカー強豪チーム等に働きかけていく。また、フットサル部、フットサルクラブの創設を促していく。全国を目指すこと、フットサルがサッカーに良い影響を与えるということを「当たり前のこと」としていく。

以上

（文責：中塚義実）